

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターおりーぶ		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 6日		~ 2025年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37 (回答者数)	36
○従業者評価実施期間	2025年 1月 6日		~ 2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な療育支援の中にドッグセラピーを取り入れている。	動物との触れ合いを通じ、手加減や関わり方、ルールについて学ぶことができる。また日常的に育児負担が大きい保護者がセラピー犬を触ることで、心拍が安定しリラックスする時間が持てる。	ドッグセラピーを受ける際、受け手が犬と一緒に関わることで自律神経や心拍が安定することが研究結果として明示されている。保護者にとってもドッグセラピーは精神的にリラックス効果が有効であり、親支援につなげることができる。
2	保護者のニーズを取り入れ、親子通所、親子一部分離、親子分離と、お子さんのステージ合わせた柔軟な対応をしている。	就労に復帰したい保護者が多いため、スタートして間もなくは、育児方法を学んでいただくためにも親子通所を行っている。その後保育園等を目標する場合は、少しずつ親子の間に距離を取りながら、不安なく次のステージに向かうために親子分離まで安心して継続することができる。	保護者の悩みや育児支援等、心理的な面も含め、心理師が検査できるような環境をつくっている。安心してお子さんと向き合うための方法をさらに多く取り入れていく。
3	看護師が常駐していることで、医療的ケア児の受け入れが可能である。	看護師が2名いることで、呼吸器管理が必要なお子さんや胃ろう等についても対応ができています。重度のハンディがあるお子さんを安全にお預かりするため、少しでもお母さんのレスパイトにつなげている。	医療的ケア児が利用する場合、今後の進路となる保育所等について連携を取り、環境の整備方法や必要な支援を提供していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	特になし		
2			
3			